

## 西村大臣記者会見要旨

令和2年10月22日（木）17時20分～17時36分（16分）

中央合同庁舎第8号館1階S101・103会見室）

（大臣冒頭発言）お待たせしました。私から5点申し上げます。まず、イギリスのトラス国際貿易大臣ですけれども、訪日を行います。明日、23日に日英の包括的経済連携協定の署名式が実施される方向で調整されていると承知をしております。トラス大臣からの要請もあり、私としてもこの機会を捉え、明日、トラス大臣と会談する予定となっておりますのでお伝えいたします。

我が国としてはこれまでも申し上げてきましたとおり、TPP11へ英国が加入の関心を示していることを歓迎しております。引き続き、英国の動向を注視すると同時に、必要な情報提供を行っていく考えであります。明日の会談では、英国側の考えを伺うと同時に、私からも改めてこのような考えをお伝えする予定であります。会談結果については、明日、また私から報告をさせていただきます。

2点目に明後日、週末でありますけれども、24日、25日で三重県に出張いたします。現地では幾つかの視察をいたしますけれども、まず、いわば「新たな日常」に向けての経済活動、経営のそうした変革に取り組んでいる所を視察いたします。

一つは、混雑予測AI、人工知能を活用した飲食店の経営。それから、このコロナによる消費行動変化への対応、あるいは海外展開に取り組んでいる食品製造業を視察いたします。また、国の補助金も活用し、消毒液を製造する企業、万協製薬でありますけれども、供給不足に対応して生産をしてくれてきています。視察をしたいと思っております。

それから、地元の町内会、観光協会、漁協と連携をしながら、また、私のところのREVIC、地域経済活性化支援機構、これと連携したモデル事業によって、海女文化を観光資源化する取組。

それから、新型コロナによる偏見差別対策、プライバシー保護に取り組む三重県の人権センターを訪問する予定であります。三重県の鈴木英敬知事は、私どもの偏見差別ワーキンググループのメンバーでもあります。知事会を代表して入っておられま

すけれども、非常に積極的に取り組んでおられますので、そのことを視察し、意見交換を行いたいと思っています。

また、知事、そして地元の伊勢市長をはじめとして、経済団体、農協、漁協、観光協会や医師会など医療団体とも意見交換を行う予定にしております。感染防止策、そして経済活動との両立、「新たな日常」を作っていくことについて、幅広く意見交換を行えればと考えています。

それから3点目、いわゆる対日直接投資の中長期戦略を検討する新たなワーキンググループを立ち上げて議論を開始いたします。まさに骨太方針、成長戦略に基づいて進めてきているものでありますけれども、来週月曜日に第1回の会合を行いたいと思っています。座長は伊藤元重学習院大学の教授にお願いしております。

菅総理がスピード感を重視されておりますので、年内にも対応すべき課題を整理し、実行できるところから着手をしていきたいと考えています。さらにその上で検討も深め、年度内に新たなKPIも含む中長期戦略を策定し、骨太方針などに盛り込んでいければと考えています。

ちなみに政府では、2020年までに対内直投の残高を35兆円とするKPIを設定し、取組を進めてきておりますけれども、これは2019年に約34兆円まで到達しておりますが、まだ他のOECD諸国と比べて十分な水準ではありませんので、しっかりと取組を進めたいと思っています。特に世界が内向きになっておりますけれども、持続的な成長を実現するためには、まさにグローバルに投資、人の流れ、こうしたものを確保していく、高度人材の受入れなど、そうした環境整備も必要であると考えています。

先ほどTPPのお話もしましたがけれども、来年は、日本は議長国でありますので、まさにTPPで定めた21世紀型の貿易のみならず、投資、様々な新たなルールを定めている訳でありますけれども、投資環境の整備なども含めて、グローバルな経済基盤を作っていくべく、努力をしたいと思っています。

4点目に、本日、小泉環境大臣と意見交換を行いました。小泉大事から、脱炭素循環型経済、そして分散型による新たな社会経済のデザイン、リデザイン、この必要性について考え方、御意見をいただきました。私もかねがね申し上げておりますとおり、脱炭素化に向けたグリーン投資の促進、いわばグリーンニ

ューディールといったもの、民間でグリーン投資が広がっていくこと、そのための呼び水としての政府の様々な施策、こういったことを成長戦略の1つの柱として考えてきたところであり、ますけれども、こうした方向性について考え方を共有、一致をしたところでもあります。今後とも小泉大臣、それから梶山経産大臣など、関係閣僚とも連携しながら進めてまいりたいと考えております。

それから、コロナ関係でありますけれども、まず、明日14時30分から分科会を開催いたします。本日、開かれました厚労省のアドバイザリーボードで感染状況について分析が行われております。

実効再生産数をはじめとして出ていますが、全国の発症日ベースのエピカーブでは、御案内のとおり、7月末からずっと下がってきたものが横ばい状況が続いております。拮抗した状況ということで、分科会でも先般分析がなされたところでもあります。

東京もずっと下がってきたのが横ばいか、少し増えている局面もあれば減っている局面もあるという、拮抗している状況がよく分かっていただけだと思います。まだ、この辺りが、今後、この数日間のもものが積み上がっていきますので、今日も22日ですから10日ぐらい前まで積み上がる可能性があるということです。

大阪は少し減少が見えるかなという状況で、これもまだ予断を許しません。この数日間の分がまだ積み上がっていきませんが、9月前半、半ばで心配したところからすると、少しどうかなというところではありますが、このところ、また陽性者の報告も多いですから、まだ予断を許さない状況です。

実効再生産数については、本日、これは感染研の鈴木先生からのものですけれども、北海道は1.05、関東圏は1.03、中京圏は0.83とちょっと落ち着いていますが、関西圏は1.06ということで、1前後推移しているということで報告がありました。

また、西浦先生からは、東京は1.64と高いのですが、これは見ていただいたら分かるように、減った時にぐっと増えるとこれは上がりますので、1週間の平均でいうと、この辺りを平均すると高い数字になってくるということでありまして、見ていただいたら分かるようにデコボコしています。

大阪は1.15ということでこういうかたちで、東京によりかは

少し落ち着いている感じはあります。

ということで、分析の手法は違いますので、2人の先生方の見方がちょっと違いますけれども、いずれにしても1を挟んで少し前後している状況だと思えますので、まさに1だと1人の人が1人にうつすわけですから、ずっと横ばいが続くわけです。2人にうつすとももちろん増えていくわけですし、1を切ると減っていくということです。何とか1を切るようにしていかなきゃいけないと思えますが、陽性者、陽性率はまた後で統計が出てきますが、3.6、北海道は3.67、愛知は3.6、大阪は3.8、沖縄が4点台と高くなっていますけれども、急激に上がっていることもないんですけれども、しかし、ずっとこれぐらいのペースが続いているということでもあります。

いつも見ていただいているとおり、陽性率が3.6ということで、まさに横ばいの状況が続いております。検査件数はこれを全部足しあげるわけですから、数千件はずっと行われていますということです。この辺りは数百件しかやれなかった訳ですから、検査はかなりの部分、できるようになっています。

60代以上の方はちょっと増えたり減ったりしていますけれども、この1週間で237人ということで、20%に近づいていますからよく注意して見なきゃいけないと思っています。

東京は、60歳以上の方が37人となったわけです。大阪も34人ということですので、リスクのある60代以上の方が少し、昨日は増えていますので要注意です。大阪は昨日、82人ということで少し高い数字でありましたから、よく見ていかなきゃいけないと思っています。

ただ、病床などは、例のステージⅢ、Ⅳの指標で見ていただくと、沖縄が少し高い数字と。それから、10万人当たりで15人を超えていますので、ステージⅢの指標が幾つかもっているということです。東京も25%ということがありますけれども、新規報告者の数は8点台ということでもあります。直近の1週間で見ると、先週よりかは0.95ということではありますが、1を超えている所ありますし、全国は1.04ということでまさに横ばいの状況が続いているわけでもあります。

東京の入院者の数も日々見ているんですけれども、昨日は990人ということで1,000人を切ってくれていますが、ここも線を挟んで増えたり減ったりしてしまして、病床もしっかり確保していかなきゃいけませんけれども、4,000を確保しています

し、重症者の数も500床ありますので、国のベースでいっても25%ですし、東京がずっと示している24人ということから見ても、ここはまだ大丈夫ですので、逼迫している状況ではありませぬけれども、高齢者の感染が増えてくることは重症化するリスクがあるということで、十分注意しなきゃいけないと思っております。

昨日申し上げたとおり、人工呼吸器とかECMOを使っている方の数は全体としては減ってきている状況にありますけれども、命をお守りするためにしっかり見ていかなきゃいけないと思っております。

こういう状況の中で、明日の分科会では、感染状況の評価をもう一度専門家の皆さんにいただきながら、今月の15日、16日に行いましたクラスター対策のヒアリングの結果を私どもから報告をさせていただきます。その上で分科会から年末年始に関する提言がなされる予定でありますので、しっかり議論できればと思っております。

また、26日、夜18時15分ですけれども、第3回のAIのアドバイザリーボードを開催いたします。歓楽街における感染状況の分析。これまで私どもは経済的手法を使って分析をしてきた、重点検査がどのぐらい効果があるか、人の流れを減らしたことがどのぐらい感染減少につながったかというような分析とか、あるいは「富岳」を使いました気流のシミュレーション。それからSIRモデルではない、マルチエージェントモデルによる県をまたがる移動の影響などのシミュレーションなどの報告を行い、山中先生、黒川先生を初め、大所高所から御議論をいただく予定にしております。幾つか御議論をいただいた上で、私どももさらに検討を重ねて、分科会に改めて報告をしていきたいと考えております。

私からは以上です。

（問）一部報道で、新型コロナの感染リスクについて、この間、発表になった横浜スタジアムと同様、東京ドームでも実証実験を行うという報道があるんですけども、もし検討されているのであれば実施日程だったり、実験の内容についてお伺いできればと。明日の分科会に諮るのかどうかについても、お聞かせいただければと思っております。

（大臣）私どもは様々な新たな技術を使っての実証については、

随時、募集を行ってござりまして、各関係省庁を通じてもいろいろな提案がなされてきてござります。読売巨人軍からも実施を行いたいという提案がなされてござりまして、現在、調整をしているところであります、という状況です。

（問）先ほどの関連なんですけれども、東京ドームの実証実験というのを聞くんですけれども、入場制限の緩和を行うような設定なのか、もう少し詳しくお伺いしたいです。

（大臣）技術の実証ということです。これは今月末に横浜スタジアムでDeNAの試合で、新たな高精細のカメラを使って、人の流れをしっかりと見ながら、密になっているような場所があれば呼びかけて、そこは人の動きを、いわばコントロールしてリスクを下げていくということ。あるいはビーコンのようなものを使って、どれだけの人がいるのかということ把握したりしていく。こういう新しい技術の実証を行って、こうした技術を活用することによって、仮に観客の数を増やしても、今、半分まで入ってもらっている訳ですけれども、これを仮に増やしても50%を引き上げて、リスクを下げられるということが実証で分かってくれば、これはエビデンスとしてそれを分科会におかけをして、分科会の先生方にガイドラインの緩和というか、入場制限の緩和というか、これについてぜひ御議論をいただきたいと思っております。

その意味で、技術の実証をDeNA、横浜スタジアムで今月末から11月1日にかけて行います。同様の提案を巨人軍からはいただいておりますので、その技術の実証について、内容を調整しているところであります。

（問）先ほど冒頭に、小泉大臣と意見交換をされたというお話があったのですが、脱炭素化というところで、一部炭素税の導入とかというお話も、大臣も含めて口にされているかと思うのですが、西村大臣として炭素税についてはどういうふうにお考えかを教えてください。

（大臣）今日の段階では、今日のやり取りでは炭素税のお話はありませんでした。小泉大臣から何か提案があったということではありません。

グリーンニューディール、様々な言い方があります。気候変動に対していろいろな対策を講じていかなきゃいけないわけです

けれども、私が申し上げているのは、再生可能エネルギーであったり、あるいは新たな水素の技術であったり、電気自動車であったり、あるいはCCS、CCUSといわれる、CO<sub>2</sub>をつかまえて、それを貯蔵したり別のものに使っていく。先般も農業に活用する事例を視察させていただきました。佐賀県で取り組んでいます。

そういった様々な民間の投資が回っていくような、そういった呼び水となるような政府の施策、これが補助であったり税制上の措置であったり、規制緩和であったり、そういった様々な対応があると思います。

そうした中で、こういった施策が有効であるのかということについては、様々な御議論もあると思いますので、こういった政策が気候変動に対して有効なのか、また、それを成長戦略の一つと位置づけて、まさに成長をしていく1つの柱としてこういった政策が有効なのか、こういったことについては議論をぜひ進めていきたいと考えています。

(問) 何度もすみません。明日の分科会で、先ほどの東京ドームの話は調整中ということでしたが、議題には上がるのでしょうか。

(大臣) 今、調整をしておりますので、調整が上手く整えば分科会の先生方に御議論いただければと思っておりますけれども、まだ最終調整をしているところです。

ありがとうございました。